

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

パレスチナを知る開講連続講座

①5月18日(土) 13時～16時

パレスチナに生きる人びとを知る

——2か月間のパレスチナ現地取材から

講師＝高橋美香（フォトジャーナリスト）

②6月1日(土) 17時～20時

パレスチナ解放闘争の歴史と現在を知る

——わたしたちはいかに連帯すべきか

講師＝役重善洋（同志社大学人文科学研究所研究員）

4. 世界の短編小説を読む

（開始は各話とも午後6時30分）

これらの作品に共通する特徴は作中の「語り」にある。手記のかたちで語られる話、聞き手を目の前に置いて語られる話、回想として語り語り過去が語られる話などさまざまな語りスタイルがある。「語り」を通して明らかになる人の生の「実相」と「虚構」。人の生を語り出す情熱の摩訶不思議なありようとその多様性に思いを馳せ、一次元的な時間への囚われと執着を突き放す。取り上げる作品はいずれも原文を初め複数の文庫にて入手可能である。

講師＝立野正裕（明治大学元教員）

①5月29日(木) リヒャルト・ヴァーグナー作

「ペートーヴェンまわり」（『百年文庫』または「ペートーヴェンまわり」3巻）（新装文庫）に収録

②7月3日(水) アーネスト・ダウスン作

「エゴイストの回想」（『百年文庫』または「アーネスト・ダウスン作品集」）（新装文庫）に収録

③8月21日(水) 江戸川乱歩作「評論と旅する男」

（『江戸川乱歩歩道』）（新装文庫）または「江戸川乱歩短編集」）（新装文庫）に収録

④9月25日(木) 泉鏡花作「夜叉ヶ地」

（『夜叉ヶ地・天守物語』）（新装文庫）に収録

HOWS講座カレンダー 2024年度前期（5月～9月）

Table with 4 columns: 日程, 講座, 講師・報告, 備考. Contains a detailed schedule of events from May to September.

1. プロレタリアートの連帯へ！

春闘は「33年ぶりの高水準」と呼ばれたものの中小労働者や「非正規」の雇用形態そのものの不当さは無視。労務の幹部が資本家との協調を主張すれば、解雇された日雇の労働者は不信をもつ。また、政治的闘争課題に労働者階級が取り組む伝統も解体されつつあり、国際連帯からも切り離される。しかしてこの状況を突破し、現代プロレタリアートの連帯をつくるか、それを議論したい。

①7月20日(土) 労働者階級の政治意識をいかに形成するか

——分析から闘争へ、労働活動家は語り合おう

座談＝鈴木友樹（全農林労働組合執行委員）

鈴木愛子（国公労連支部委員長）

須田光輝（全国一般教東東部労組書記長）

司会＝藤原晃（神奈川高教組）

夏季セミナー

②9月14日(土) アメリカ労働運動の高揚からなにを学ぶか

——わたしたちの運動を基礎から強めるために

講師＝若林靖久（自治体労働組合書記）

2. 世界のいまを直視する

いま、「グローバリズム」が声を強めている。しかし、半世紀を中心とする帝国主義勢力はその一部を政治的に取り込みつつ、軍事的にも対峙することで、この流れを押し留めようとしている。第三世界の諸民族はこの状況をいかに打開するか、そして帝国主義本國の人民は世界の変革過程にいかに関与するか。本シリーズでは世界を直視する視点と課題への理解を深めていきたい。

①6月29日(土) 声を強める「グローバルサウス」(1)

——いっそう狡猾になる西側

講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）

②7月21日(日) 第三世界のなかのレーニン思想

——レーニン没後100年とごんにちの世界

講師＝林裕哲（朝鮮大学校外国語学部准教授）

夏季セミナー

③8月24日(土) 声を強める「グローバルサウス」(2)

——攻勢を仕掛ける米欧日豪

講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）

④9月21日(土) 歴史の主体としての第三世界の現在地

——社会主義への道が現状を打開する道 ※この講座は13時30分開場

講師＝林裕哲（朝鮮大学校外国語学部准教授）

3. 21世紀の芸術と批評

現代において「俗情との結核」（大西巨人）をあくまでも拒否しようとする、ある種の「潔し」に直面せざるを得ない。格闘つきの「芸術作品」は歴史や社会の本質としての真理を照らす像たりえず、大衆の能動的な喜びとはまったく無縁の複製的産物の「娯楽作品」は、諸々のイデオロギー機構に管理された人びとへの虚偽意識を固定し増殖させることで芸術運動の基礎を食ひつくす。本シリーズではこの後遺状況を克服するための芸術と批評のありかたを考える。

①7月20日(土) 世界文学としての大西巨人文学

——市民社会をこえて

対談＝山口直孝（二松学舎大学教員）

立野正裕（明治大学元教員）

司会＝杉山雄大（二松学舎大学教員）

夏季セミナー

②7月21日(日) クリティシズムの復権へ！

——ざっくりぼろんに語る思想・文化・芸術のごんにちの課題

座談＝佐藤勇輝（20世紀フランス文学・思想研究）

伊藤龍哉（文芸評論家）

司会＝杉林佑樹（翻訳家・HOWS事務局）

夏季セミナー

夏季セミナー 変革と創造のビジョンをつくりだそう！

7月20日土～22日(月)

（神奈川県の施設に宿泊し、事前申込・宿泊料別途必要）

①7月20日(土) 労働者階級の政治意識をいかに形成するか

座談＝鈴木友樹（全農林労働組合執行委員）／鈴木愛子（国公労連支部委員長）／須田光輝（全国一般教東東部労組書記長）

司会＝藤原晃（神奈川高教組）

②7月20日(土) 世界文学としての大西巨人文学

対談＝山口直孝（二松学舎大学教員）／立野正裕（明治大学元教員）

司会＝杉山雄大（二松学舎大学教員）

③7月21日(日) 第三世界のなかのレーニン思想

講師＝林裕哲（朝鮮大学校外国語学部准教授）

④7月21日(日) 反帝共同行動を求める朝鮮に切り結ぶ視点

座談＝尹成鉄（在日朝鮮青年同盟中央国際部長）／大村誠一（活動家集団思想運動事務局責任者）

司会＝韓梨恵（朝鮮近現代史研究）

⑤7月21日(日) クリティシズムの復権へ！

座談＝佐藤勇輝（20世紀フランス文学・思想研究）／伊藤龍哉（文芸評論家）

司会＝杉林佑樹（翻訳家・HOWS事務局）

⑥7月22日(月) 帝国主義との対決こそがパレスチナ問題の核心

講師＝黄貴勲（在日朝鮮社会科学者協会大阪支部）

6. この人にきく

①5月18日(土) パレスチナに生きる人びとを知る

——2か月間のパレスチナ現地取材から

講師＝高橋美香（フォトジャーナリスト）

②6月1日(土) パレスチナ解放闘争の歴史と現在を知る

——わたしたちはいかに連帯すべきか

講師＝役重善洋（同志社大学人文科学研究所研究員）

※この講座は17時～20時開催。

③7月21日(日) 反帝共同行動を求める朝鮮に切り結ぶ視点

——東アジアの転換点、日朝青年で今後の運動を考える

座談＝尹成鉄（在日朝鮮青年同盟中央国際部長）

大村誠一（活動家集団思想運動事務局責任者）

司会＝韓梨恵（朝鮮近現代史研究）

夏季セミナー

④7月22日(月) 帝国主義との対決こそがパレスチナ問題の核心

——「パレスチナの革命」（東洋平書、スーベール）を題材に

講師＝黄貴勲（在日朝鮮社会科学者協会大阪支部）

夏季セミナー

⑤9月7日(土) 在日朝鮮人からみた日本国憲法の成立と現在

——憲法改悪反対運動に求められる歴史的・国際的な視座

講師＝李泰一（朝鮮大学校外国語学部准教授）

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①HOWS文学ゼミ（戦後文学ゼミを改称）

チューター＝山口直孝、松岡慶一

2000年から2018年まで主に戦後の文学・芸術運動を検証する作業を続けてきましたが、これを第1期として、2018年からは第2期、名称もHOWS文学ゼミで再出発しています。第1期の作業を継承するのみならず、いかにして現在の複雑な支離の文化状況を突破して、文学・芸術運動を再生していくかが課題です。

＜2024年度前期募集要項＞

- 定員 本科生20名
●全講座20回（高週1～2回程度）
●本科生は、すべての講座を受講できます。
◎聴講生20名
シリーズを問わず、自由に講座が選べる日校通りの聴講チケットがあります。
●費用
◎本科生 入学金…1万円（次期以降は不要）
受講料…前期：25,000円、後期：25,000円
●前期5月、後期11月の開講時までにそれぞれ納入してください。
◎聴講生 聴講料 回数券…10,000円
●聴講料納入と引き換えに日回まで使える聴講カードをお渡しします。
●1回の受講料は本科より無高ですが、一般受講より割安になります。
●聴講チケットは、期間内のみ使用できます。
◎一般 受講料…1,500円（各講座1回につき）
●本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。
●申込方法
●所定の中込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参。または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、中込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
●注意事項
●HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
●講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。